

## 「水引中学校のみなと六尺棒踊り伝承活動の取組」

### 1 学校名

薩摩川内市立水引中学校

### 2 学年・人数

1～3年生 73名

### 3 日時・場所

- (1) 令和4年6月～9月（ふるさと・コミュニケーション科の時間）
- (2) 水引中学校体育館・校庭

### 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

#### (1) 名称

みなと六尺棒踊り（みなとろくしゃくぼうおどり）

#### (2) 由来

港町に伝わる郷土芸能である。鎌倉時代や戦国時代に始まったといわれる。各地で戦乱が相次ぎ、農地荒廃、賦役頻繁、自衛のための武器所有も許されずという有様で農民は、棒で護身するしかなかった。湊地区では昭和27年に青年団により踊らされたのを最後に長年途絶えていたが、70歳代の方々が中心となり50年ぶりに復活した。現在、保存会の方々が中心となって継承し、毎年6月に新田神社に踊りを奉納している。

#### (3) 構成等

六尺棒を使った「棒踊り」、8人が1組になり、歌者の「おーせーへーろー・・・」という歌に合わせ、踊り手が「さーさーさ」というかけ声を出しながら、棒を体の上・下部で合わせて叩いたり、棒で地面を叩いたりしながら踊る。

### 5 保存会や地域との連携の具体

「みなと六尺棒踊り」保存会の方々と、年度当初に練習計画及び発表の場、踊りに必要な道具等について打合せを行った。練習には、毎回、唄者の方を含め7～10人の保存会の方々に指導していただいた。保存会の方々には、学校応援団に登録していただいている。

### 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

第1回目の練習時に、保存会の方から「棒踊」の歴史や由来、保存会の活動等について生徒に説明してもらい、生徒の興味や関心を高めるようにした。また、水引小中学校合同運動会では、生徒と棒踊り保存会の人たちが一緒になってみなと六尺棒踊りを披露し、文化財を伝承する意図を内外に示すことができた。生徒は意欲的に練習に取り組み、愛郷心を高めるよい機会となっている。

## 7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



（保存会の方々の自己紹介）



（実演を交えた保存会の方々の指導）



（運動会に向けての練習の様子）



（小中合同運動会での披露）

## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

### 【3年生】

- ・ 最初は難しくてなかなかできませんでしたが、指導者の方が優しく教えて下さったので、だんだんとできるようになっていきました。合同運動会では、保存会の方と一緒に踊ることができたので、よかったです。
- ・ みなと六尺棒踊りで使う棒が思っていたより長くてびっくりしました。由来や歴史も聞くことができ、とても勉強になりました。私もこのような伝統を引き継いでいきたいです。

### 【教職員】

- ・ 校区の小中学校の統廃合により、伝統文化の継承が難しくなっている。地域によっては、後継者がいなくなりつつあるところもある。学校と地域が一体となり、伝統文化を継承していく必要があると感じた。そういった意味で、小中合同運動会を披露の場とし、伝統芸能を練習していくことはとても価値のある取組である。生徒も愛郷心が芽生えたことだと思う。

### 【保存会から】

- ・ 学校が伝統芸能の伝承活動に取り組んでいることは非常にありがたい。子供たちも楽しそうに取り組んでいたのが、よかった。これからもたくさんの人たちに踊ってもらいたい。

### 【地域の方から】

- ・ このような機会を作ってください、とてもありがたい。これからも、このような取組をどんどんしてほしい。